

I あいさつ

2020 年度を終えて

2020 年は新型コロナウイルスに翻弄する 1 年でありました。

翻弄だけでなく、新たな進化を求められたことが大きな成果を残した一年でもあったといえると思います。

生活、仕事、考え方、コミュニケーションの方法等々 あらゆることに対して感染予防を最優先することで異なった方法、異なった考え方を求められました。

人が集まるところに出かけて行って多くの方を対象に講演やデモンストレーションを実施し、多くの方にシンシアの丘にお出かけ頂き、見学をして頂くことを毎日 1 件は確実に、多い日は 3-4 件実施して来た日々は一変しました。

北海道から沖縄まで 介助犬ユーザーへの継続指導と新たな希望者対応と希望者発掘のために東奔西走して来た日々も一変しました。

介助犬ユーザーも希望者も基礎疾患がある方々ですので重篤化のリスクを心配しなければなりません。そのような意味で、新たな希望者へのアプローチには慎重にならざるを得なくなりました。

この状況が長期化することを視野に、2020 年 5 月開催の介助犬フェスタのオンライン開催を契機に、あらゆる講演や大学の講義、イベントをオンラインで出来るよう、職員の勉強と機材の確保、ネット環境の整備に力を入れ、また動画で発信する力を強化するべく、YouTube の発信にも力を入れました。

新規希望者向けに行ってきた相談会や体験会もオンラインで開催したところ、これまでに以上に多くの参加者があり、遠方の方々には大変好評でした。

これまでなかなか着手出来なかった、介助犬以外の分野での犬の貢献のニーズについて職員間で、また役員とじっくり向き合って話をする機会も作ることが出来、新たな研修や事業理念、目標等をまとめる機会にもなりました。その結果、社会的に大変反響が大きい付添犬の派遣に着手することも出来ました。虐待や性被害を受けた子供にとって付添犬の存在は大変重要で、今後もニーズが増えることが予想されます。

障害者を取り巻く環境や考え方も大きく変化しています。我々協会に求められる役割も今後益々変化していくことが予想されます。社会のニーズに敏感に丁寧に応えていける協会であり続けられるよう、柔軟な力を身につけることが必要であることを実感させられた 1 年でした。

最後に、今年度は「大変でしょう」と多くのご寄付を賜り、そのお陰で 12 年目を迎えて雨漏りや錆、ペンキの剥がれ、老朽化等々があったシンシアの丘の施設を、来客が激減している間に修繕工事をする事が出来ましたことに深謝してご報告申し上げます。今後とも皆様からのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

理事長 伊藤 利之

Ⅱ. 令和 2 年度 事業報告

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、1組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

新規入所犬として候補犬 31 頭を確保し、評価及び訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していたグルーブレッスンをオンラインでの実施に変更し、パピーホームへの飼育指導を行った。

(3) 繁殖

① 繁殖犬メスの出産は 0 回だった。

② 10 頭の繁殖犬(雌 7 頭、雄 3 頭)を確保した。(新規 2 頭、引退 1 頭)

③ Career Dogs Australia から凍結精液を購入した。(助成金を活用)

④ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、人工授精手術を 1 回行った。

⑤ 岐阜大学へ凍結精液の作成の相談・依頼を行った。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 20 名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。

訪問での継続指導の他に、電話・メール・オンラインでの継続指導(訪問指導:34 回、電話:157 回、メール:138 回、オンライン:2 回)

② 使用者交流会

11 月 1 日(日)にオンラインにて開催した。参加者は 15 名であった。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 普及啓発・広報活動

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2020」を開催した。

- ・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、「見る、知る、感じる、そして楽しむ」をコンセプトに初めてオンライン（YouTube）で開催をし、関連動画31本の掲載を通して、16,000を超える動画再生があった（2020年5月23日時点）。
- ・オンラインの介助犬フェスタ内で感謝の集いを開催し、広く介助犬ペアの誕生、およびDI犬とハンドラー認定について報告した。

② 恒例イベントの実施

新型コロナウイルスの影響でイベントや講演会等の延期・中止が多々あったものの、オンラインでの講演や見学会開催に取り組んだ。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
7月11日（土） 7月22日（水） 9月12日（土） 10月17日（土） 11月14日（土）	一般見学会（来場型）	5	133名	センター
8月12日（水） 9月12日（土） 12月12日（土） 1月16日（土） 2月13日（土） 3月27日（土）	一般見学会（オンライン）	6	81組	センター
8月9日（日）	介助犬教室 （オンライン、Instagram）	1	60組 （同時視聴者数）	本部
8月13日（木）	介助犬教室 （オンライン、Instagram）	1	55組 （同時視聴者数）	センター

③ 肢体不自由者等への啓発

- ・バリアフリー2020:4月16日（木）～18日（土）開催（インテックス大阪）→中止
- ・ウェルフェア2020:5月14日（木）～16日（土）開催（ポートメッセなごや）→中止
- ・ヨコハマヒューマンテックランド'2020:7月24日（金）～25日（土）開催（パシフィコ横浜）
→WEB開催（出展なし）
- ・国際福祉機器展2020:10月21日（水）～23日（金）開催（東京ビッグサイト）
→WEB開催（出展なし）

④ はたらくワンワンランド（JA共済連主催）

4件を実施した。

（愛知県、岡山県、高知県、福島県）

⑤ イベント・講演・講義

・イベント・講演会・・・ 97件（内オンライン実施・オンデマンド：30件）

・講義：下記の大学や専門学校にて行った。（順不同）

愛知医科大学、愛知県立芸術大学、大阪保健医療大学、神奈川県立保健福祉大学、加茂看護専門学校、帝京科学大学、東海大学、東海医療科学専門学校、東京YMCA医療福祉専門学校、東洋大学、四条畷学園大学、資生堂美容専門学校、名古屋ECO動物海洋専門学校、名古屋外国語大学、専門学校名古屋スクールオブビジネス、南山大学、日本獣医生命科学大学、日本福祉大学、藤田医科大学、ヤマザキ動物専門学校、ユマニテク医療福祉大学、横浜市立大学

・訓練センター視察・・・ 9件

・セントレア国際空港で行われた「誰もが使いやすい空港を目指した講演会」（2020年11月30日、中部国際空港株式会社主催）に参加し、「補助犬を通して視覚・聴覚・肢体に障害がある方の課題と支援の方法、障害とは」と題した講演を行った。

⑥ 企業タイアップ大型企画の実施

読売巨人軍および菅野智之投手（介助犬サポート大使）とタイアップし、東京ドームへの出展、チャリティコラボ商品の企画・販売を行った。

出展回数：16回

チャリティコラボ商品：計4点

（累計販売数：7,144枚、累計販売金額：23,897,160円）

⑦ 街頭募金活動の実施

実施なし。

(2) PR犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加するPR犬の作業力維持、並びに広報部職員の技術向上のため、訓練部と連携しPR犬9頭の育成・訓練を行った。

また、訓練部と連携し、情報共有・技術向上ためにPR犬ミーティングを定期的に実施した。

(3) マスコミ対応

メディアへの映像・写真素材の提供としてプロ写真家による介助作業の写真撮影を行った。また、プレスリリースサイト（PRTIMES）を通じて計51件のプレスリリースを実施し、計1,381件の記事転載がされた（広告換算額：18,764,535円）

(4) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

- ・会報誌作成・発信を4回行い、寄付増収プロジェクト「ピンチをチャンスに！」に計2,756,537円(204件)のご支援をいただいた。
- ・ホームページで月に一度連載漫画「介助犬ライカ！」の掲載を行った。
- ・公式YouTubeチャンネルへの動画掲載を本格化し、計78本の動画公開を行い、動画再生回数は83,000回にのぼっている。

(5) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

以下の学会にて、リハビリテーション専門職等への介助犬の理解を深めるためブース出展やデモンストレーションの機会を得た。

【2020年度学会一覧】

学会名	日程	開催地
第59回 国際脊髄障害医学会	2020年9月2日(水)～4日(金)	オンライン開催
第55回 日本脊髄障害医学会	2020年9月5日(土)	パシフィコ横浜(神奈川県)
静岡県中部医学会 学術講演会	2020年9月12日(土)	会場とオンラインのハイブリッド開催 (オンライン参加)
第13回 日本身体障害者補助犬学会→延期	2020年11月7日(土)～8日(日)	大東市(大阪府)

(6) ボランティア向け講習会・交流会等の実施

ボランティアに対し新型コロナウイルス感染予防についての講習会を2回実施した(オンライン開催。計40組参加)

3.公益的な活動

(1) DIを導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に行った。

新たに楓の丘こどもと女性クリニックにはハンドラーとDI犬の認定を行った。

ハンドラー継続指導機関名:聖マリアンナ医科大学病院、楓の丘こどもと女性のクリニック

(2) 千葉県千葉リハビリテーションセンターで初めて、定期訪問の野のすみれクリニックで職員によるDI活動を行った。その他の機関ではコロナの影響で実施できなかった。

(3) With You プロジェクトとして、ADHDとLD・自閉症スペクトラムをお持ちのお子さんがいるご家庭、脳性麻痺をお持ちのお子さんがいるご家庭、発達障害をお持ちのお子さんがいるご家庭等、5家族へ譲渡を行った。

(4) DI犬の候補として海外より2頭の成犬を導入した。(助成金を活用)

(5) 専門機関からの相談への対応

① 名古屋中央児童相談所の一時保護所でトライアルとしてDI活動を開始した。

② NPO法人つなぐの要請により、付添犬派遣を行った。

4.相談・指導助言

(1) 介助犬希望者への相談支援

- ① 介助犬に関心のある障害者を対象に、オンラインにて相談会を5回実施し、11名の参加があった。

下記は延べ人数

名称	日程	参加人数
オンライン相談会	2020年7月26日	6名
	2020年9月26日	4名
	2020年11月23日	1名
	2021年2月6日	3名
	2021年3月28日	4名

5.調査研究

(1) 各学会への参加、演題登録

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第13回日本身体障害者補助犬学会は2021年11月に延期となった。

6.補助犬関係団体協力

(1) 補助犬育成団体との連携

日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努め、東日本盲導犬協会から成犬2頭を導入した。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

- ① ADI(Assistance Dogs International)の査察を受ける為の準備を行った。
- ② Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)へ飼育委託しているDI候補犬2頭の導入を行った。
- ③ Career Dogs Australiaへ犬の導入についての相談を行い、パピー4頭を導入した

7. 補助・助成申請

(1) 介助犬貸与に関する補助

2020年度認定者在住の石川県より、介助犬貸与に対して給付決定された。

都道府県名	補助金額
石川県	1,890,000円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として123,000円が給付決定された。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として300,000円が給付された。

(3) ふるさと応援活動支援事業としての補助

長久手市より、介助犬にならない犬たちの活躍支援事業として9,171,422円が給付された。

(4) 助成団体・事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 全国労働者共済生活協同組合連合会	300万円	コロナ禍における施設衛生環境維持及び使用者・ボランティアフォローアップ体制のオンライン化推進 ※2020年8月:内容変更申請・承認
日本自動車販売協会連合会愛知県支部	200万円	介助犬認定のための補助犬育成助成事業
みずほ福祉助成財団	100万円	広報啓発活動用車両の整備
毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金)	20万円	遠隔地の肢体不自由者への介助犬相談・啓発活動
中部ウォーカーソン	30万円	オンラインでの事業活動展開推進プロジェクト

(5) 団体・企業からの使途指定寄付等

名称	金額	内容
デンソーはあとふる基金	10万円	啓発用衣類の購入

Amazon 欲しいものリストを公開し、物品寄付の募集を開始した他、「Amazon みんなで応援プログラム」の認可を受け、Amazon ホームページ内に掲載された。

8.管理・運営

(1)法令及びガイドラインに準拠した法人運営を行った。

・理事会・評議員会の開催状況

定款に定める理事会・評議員会を以下の通り開催し、適正な運営に努めた。

*役員等体制(2021年3月31日現在)

理事・・・6名 監事・・・2名 評議員・・・8名
 会長・・・1名 副会長・・・1名 顧問・・・1名

<理事会>

開催日	出席数	議案	審議結果
第1回通常理事会 2020年5月21日(木) オンライン開催	理事6名 監事1名	第1号議案 令和元年度事業報告及び決算の件 第2号議案 定時評議員会招集の件	可決
第2回通常理事会 2020年10月30日(金) オンライン開催	理事6名 監事2名	報告事項 ・上半期事業活動(新型コロナ感染対策)及び収支予算について ・理事長及び常勤役員の職務状況について	—
第3回通常理事会 2021年1月29日(金) オンライン開催	理事6名 監事2名	第1号議案 センター修繕工事及び積立資産取り崩しの件 第2号議案 令和2年度補正予算及び資金の積立ての件 第3号議案 評議員候補者推薦の件 第4号議案 理事及び監事候補者選任の件 第5号議案 会長・副会長及び顧問候補者選任の件 第6号議案 令和3年度事業計画及び収支予算の件 第7号議案 令和3年度施設長等選任の件 第8号議案 主要規程変更の件 (就業規則、給与規程、組織規程、経理規程) 第9号議案 臨時評議員会招集の件	可決

<評議員会>

開催日	出席数	議案	審議結果
定時評議員会 2020年6月17日(水) オンライン開催	評議員 7名	第1号議案 令和元年度事業報告及び決算の件	可決
臨時評議員会 2021年2月26日(金) オンライン開催	評議員 6名	第1号議案 令和3年度事業計画及び収支予算の件 第2号議案 常勤役員報酬額の件	可決

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

①法人会員・法人支援者への訪問

新型コロナ感染予防の観点より訪問は実施せず。初の試みとして2021年3月に法人会員向けトピックスシェア会をオンラインで実施し、会員同士の情報共有及び交流の場を設けた。

②マンスリー会員増加・賛助会員新規入会促進:

会報誌でマンスリー会員加入を呼びかけ、計96件の新規加入があった。

種別	新規加入	カッコ内は前年度実数	合計	カッコ内は前年度実数
個人会員	242	(217)	2,170	(2,208)
内マンスリー会員	96	(63)	525	(453)
法人会員	10	(16)	152	(147)

③収益事業の拡大:

年間販売計画に基づいて、新しいグッズをラインナップに加えた。また、引き続き読売巨人軍及び菅野智之投手とのコラボグッズの売り上げが収益事業最大の柱となっている。

チャリティグッズ総売上: 31,945,885円 (内菅野投手コラボ: 23,897,160円)

④キャッシュレス化への対応:

チャリティグッズのキャッシュレス決済化に取り組んだ他、常設募金箱の収入減を補うべくキャッシュレス募金についての検討を開始した。

(3) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの大規模な修繕工事を行い、屋根・外壁塗り替え防水、犬舎天井・床塗替修繕及び犬舎バイオトイレ・電気・空調・給湯設備更新等を行った。保有車両について、計画的な保守の為、活用可能な助成金等を検討し、助成金を用いて車両の整備を行った。また、Wi-Fi環境整備によるネットワーク環境の改善に取り組み、増えているオンライン講演やイベント実施、オンライン上の啓発動画撮影のための機材導入を行った他、動画素材等の保管場所確保のために共有サーバーの増設による環境整備をおこなった。

(4) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施、労働環境の整備

- ・職員及び関係者の安全及び新型コロナウイルス感染拡大予防を最優先に、テレワーク環境の整備を行い、制度及び必要な規程を設けた。啓発のイベントや講演のみならず、介助犬使用者・希望者向けの相談会もオンラインで開催を行い、遠方の方々にも安心してご参加いただくことができた。
- ・働き方改革関連法の施行に向けて、就業規則・給与規程の見直しを行ない、職員に周知説明した。
- ・コストダウン施策として、協会携帯電話のキャリア変更を行い、電波改善による業務効率化を実現した。
- ・コロナ禍の在宅勤務体制や出張の自粛により少なくなった職員間・拠点間の情報共有の場として、月に一度のトピックスシェア会を開催し、情報共有の円滑化を図った。

(5) 人事評価システムの導入の実施

9.人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

① 訓練士の育成

訓練担当者への OJT の他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図った。

② 研修生の募集

新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、募集は行わなかった。
新たな人材育成の体制について検討を行った。

(2) 以下の研修に参加した。

① ア 国立障害者リハビリテーションセンター主催 訓練者研修に参加した。

イ NPO 法人つながぐ主催 虐待被害児支援・司法面接研修に参加した。

ウ 一般社団法人アニマルリテラシー総研主催 動物介在関連のオンラインセミナーへ参加した。

② Career Dogs Australia Lauren Elgie 氏より、繁殖・パピー育成プログラムについてコンサルティングを受けた。

③ 広報活動に必要な技術向上のため、オンラインセミナーへ参加した。

④ 人事評価研修・目標設定研修を実施した。

10.その他

- (1) 名古屋市総合リハビリテーションセンター、兵庫県立総合リハビリテーションセンターへ介助犬認定審査相談員として役員 1 名を派遣した。